



# 自然の解説者

春季号 [第67号] 2020年4月13日

NPO 法人

ぐんま緑のインタープリター協会紙  
事務局：〒371-0103 前橋市富士見町小暮  
2425-28 櫻井昭寛方  
電話・Fax 0274-42-2726  
<http://inpuri.web.fc2.com/>  
編集：総務企画部会

## 下仁田自然学校

下仁田自然学校運営委員 関谷 友彦

群馬県の南西部にある下仁田町は世界遺産「荒船風穴」とジオパークのある町です。町の中心部を中央構造線が通り、太古の海底火山の岩石が露出する公園や日本列島形成時にかかわるダイナミックな地殻変動を示す地層の褶曲露頭や断層露頭が点在します。町の西部には、山頂の平らな荒船山をはじめかつての火山噴出物の浸食によってできた独特の山並みが広がっています。その独特の地形や地層が生み出す気候を先人がうまく利用した「荒船風穴」は明治時代の近代絹産業を支えた世界遺産です。以上のように下仁田町全域に日本列島誕生からその大地と共に暮らしてきた人々の物語があります。

下仁田自然学校は、そんな下仁田町を舞台に「自然が大好きな子どもたちが育つよう、そして子どもも大人も、みんなで学びあい研究ができる楽しい学校をつくる」ことを目的とし、1999年に近隣の小中学校、高校、大学の先生方が中心になって設立した民間団体で、下仁田町からの支援をうけて、町立の下仁田町自然史館を拠点に活動しています。

研究活動としては、下仁田をフィールドとする様々な研究団体や研究者を支援し、下仁田町の発行する「下仁田町自然史館研究報告」にそれらの研究成果をまとめています。

こうした研究成果をベースに、町の生涯学習事業と連携し地域の子どもから大人までを対象とした自然観察会を行ったり、下仁田町の小・中学校の郷土学習支援として地層の勉強会や川原の石の観察会を行ってきました。普及活動としては、自然学校文庫として、活動の成果を普及本（自然学校文庫）にまとめたり、下仁田町自然史館の展示づくりに協力しています。

下仁田自然学校は昨年創立20周年をむかえました。これまでの自然学校の独自研究だけでなく、地元から湧きあがった疑問に挑む研究活動やつい先日の東日本台風災害など自然災害が頻発する昨今の情勢を考慮し、地域の自然災害の調査に取り組むなど新たな活動をスタートさせています。

下仁田自然学校の活動はこの活動に賛同する全国の後援会員の支援によって運営しています。会員の皆さんには、自然学校の行事案内や活動の様子を下仁田自然学校連絡紙「くりっぺ」でお知らせしています。皆さんもぜひ活動にご理解いただき、魅力たくさん下仁田自然学校の行事にご参加ください。



自然学校文庫



## 学校の樹木⑫ ～照葉樹林の主要樹スダジイ～

顧問 亀井 健一

スダジイと言われてもピンとこない人もいるでしょう。単にシイとかシイノキと言われていたからです。ところで、年配者は懐かしく思うでしょうが、童謡『お山の杉の子』には「昔 昔 その昔 椎の木林のすぐそばに 小さなお山があったとき」の一節があります。元歌の作者は徳島県生まれだそうです。この県では住宅地の裏山にスダジイ林が普通にあったのです。スダジイが西日本の照葉樹林の主要樹であることを物語っています。図鑑によれば、スダジイの自然分布は福島県、新潟県以西の本州、四国、九州、南西諸島（南限は屋久島）、済州島の丘陵帯です。福島県と新潟県では沿岸部に生えています。弱い光でも生育する陰樹の性質があり、自生地では極相林（陰樹林）になる場合があります。樹林内では、陽樹は光不足のため発芽できないため、陰樹ばかりになるわけです。

スダジイは、本県には自生は見られません。まれに自生らしきものを見ることがありますが、逸出したものでしょう。植えられたものはよく育つので、富岡市の「貫前神社のスダジイ」のように、神社や公園には大木があります。学校でも見ることがあります。

病害虫に強く、常緑樹なので、シラカシやクスノキと同じように、公園、校庭、街路などに植えられることがあります。県立公園の群馬の森には大きな樹冠の大木があり、ほとんど剪定されず、自然樹形を保っているため観察に適しています。



スダジイの雄花序と雌花序

(2)

本種はブナ科シイ属の常緑広葉高木で、高さ20m、地上1.3mの高さで幹周3mぐらいになります。樹皮は灰褐色でなめらかで、老木では縦に裂け目が入ります。葉は互生し、葉身は長さ5~15cmの広楕円形で厚い革質です。葉の裏面が灰褐色で判別の参考になります。

花期は5月下旬から6月、雌雄同株で1つの株に雄花序と雌花序がつきます。虫媒花なので、花に香りがあります。雄花序は長さ10cmぐらいで、雄しべが目立つ雄花が軸に多数つき、曲がった白いブラシかケムシのように見えます。雌花序は長さ8cmぐらいで、雌花は軸に点々とつきます。果実は堅果で長さ1.2~2cmの卵状長楕円形で、先がとがっています。翌年の秋に熟します。殻斗は果実を包んでいますが、成熟すると3裂し、果実が顔を出します。ドングリや殻斗が特有の形なので、判別の手掛かりになります。

材はかたく、建築や器具材に使われます。またシイタケの原木に使うこともあります。ドングリは、渋みがないので、渋抜きが必要がなく、どんぐりを細かく砕いてクッキーに混ぜたり、そのまま炒って食べたりするそうです。

和名スダジイの由来については、不明とのこと。別名にイタジイ、ナガジイの名があります。



スダジイの堅果と殻斗

### <活動報告>

#### 令和元年度「大人のための自然教室」修了式 2月16日(日)

高崎市総合福祉センター 普及部会、総務企画部会

今年度最後の講座が終了し、修了式を迎えました。理事長より「今後とも自然への理解度を深め、緑のインタプリターとしての活動の参加に期待したい」との挨拶がありました。今年度は全受講生29名の内、補講者1名含む23名が修了し21名の方が協会へ入会しました。(久保田)

#### 会員資質向上研修⑨講演会「群馬のへびに関心をもとう」 2月15日(土)

県立観音山ファミリーパーク 総務企画部会

亀井健一講師による一般公開講座として実施し、協会員17名、一般3名が参加しました。講師自身が撮った写真を使い、撮った時の状況やエピソードも交え、「群馬のへび」について詳しく解説しました。質問にも丁寧に答えて頂き、群馬のへびを知る有意義な講演会になりました。(櫻井)



#### 安中里山整備 1月~2月 総務企画部会

伐採した竹を乾燥させるための棚づくりと、竹を棚に積む作業をしました。1月末にはチェーンソーで大規模に伐採し、2月28日に全部の片付けを済ませ、今期の作業を終了しました。

参加者は1月17日4名、24日4名、31日5名、2月7日3名、21日5名、28日5名でした。(吉永)



### <協会員の声>

#### 次の世代に繋げるために

第17期生 北爪 和幸

私は仕事柄、リサイクルについて考える機会があります。私達が使用した製品や企業から生産に伴って排出される副産物などが環境負荷を出来る限り与えないよう再利用や代替え燃料としての使用など、企業や行政・団体が取り組みを行っています。しかしながら未だに自然が失われ生きる場所を失った生き物がいるのも事実です。

非力な自分でも自然を守るために何か出来る事は無いのか? インターネットを色々検索してみました。

「自然の解説者」養成講座という言葉が心に響き、早速、インプリの「大人のための自然教室」に応募しました。

山や川などで草木に触れ、教室では自然のしくみや生き物について学びました。そして、自然とは特別な場所だけに有るのではなく、それは目を向ければどこにでも有る物だと改めて感じました。

講師の方々の解説して下さるたくさんの知識や言葉、協会の方々の様々な活動が、今有る自然を次の世代に受け継ぐ事に繋がるのではないかと感じます。

協会員として参加させて頂き、この自然を守る為のチカラに少しでもなれたらと思います。



## 緑の窓



## メダカの屋外飼育について

第15期 杉原 隆

僕は庭の一角に大きなプランターを置いてその中でメダカを飼っています。メダカを飼っていると言うと、多くの方が「水替えが大変だろう」と聞いてきます。しかしながら、メダカは水槽の設置場所と同居させる生物を選ぶことで、ほとんど水替えをせずに飼育することが可能です。尚、上手な人は何年も水替えをしないで飼育できるのですが、今のところ春先に一回掃除をしています。現在の目標は何年も水替えも掃除もしないで維持できる水槽です。ところで、僕は当初、このような水槽内での自立した生態系の確立には多種多様な生物の共存が必要と考えていました。そのため様々な生物を水槽に入れていた時期があります。しかしながら自然とは異なり水槽という限られた人工的な環境の中では、その環境に適した生物が爆発的に繁殖して他の生物を駆逐してしまう場合が多く、思惑を大きく外れる結果となりました。自然と同じような生物の多様性を維持するためには、多種多様な環境が必要なのかもしれません。今はメダカとタニシとヌマエビとヨコエビと水草で僕的には結構安定した水質が維持できていると思っています。そして、水が暖まってメダカの産卵が始まると、生命の力強さと夏の始まりを実感するのです。



## 豆知識

## 雑草の話 17 ノゲシ

理事長 関端 孝雄

2月中旬、散歩している土がわずかしかない道端に何種類かの花が咲いていました。ナズナ（アブラナ科）、ホトケノザ（シソ科）、オオイヌノフグリ（オオバコ科）、スズメノカタビラ（イネ科）、タネツケバナ（アブラナ科）、ノゲシ（キク科）等々。健康のためと毎日散歩することになって35年程。道々季節を追って雑草や野鳥を見、街路樹や庭木などを眺めながら歩くのは楽しいものです。

ノゲシ（野芥子：キク科ノゲシ属、図1）は全国的に道路や畑の端などに生え、高さ1m程の一年草または越年草です。4～7月に開花することが多いのでハルノゲシの名がありますが、1年中咲いているようです。強靱な雑草ですが、特別邪魔になる事はありません。

葉は互生し、上部の葉には葉柄があり浅い切れ込みがあります。下部のものは羽状に切れ込んでいて不揃いの鋸歯があり、先が尖っていますが柔らかです。基部には葉柄がなく、先が三角状にとがって両側に張り出し(図2)、茎を抱いています。裏面には白くちじれた毛が散生します。形がケシ（ケシ科）の葉に似ている所からノゲシの名がつけました。

茎は中空で沢山の稜があり、折ると白い乳液が出ます。頭花は多数の黄色い舌状花が集合したもので、中心の小花は小さく周囲ほど大きくなります(図3)。総苞と花柄には腺毛があります。果実（そう果）は褐色で狭い倒卵形をし、果皮に縦の筋と横じわがあります(図4)。

冠毛は白色で、基部が合わさり環状になっています。果実が熟すと総苞片は反り返ります。葉は苦味がありますがあく抜きをして水にさらせば食用になり、ヨーロッパではサラダ菜として使われるとか。生育日が経過するほど苦味が増しますから、なるべくロゼット状態の若く柔らかい葉を用います。小種名のoleraceusは菜園のことです。

ノゲシ属には他にオノゲシ（鬼野芥子）などがありますが、その特徴を以下に記します。葉の基部は丸く張り出して茎を抱き、鋸歯の先は鋭い刺になっていて触るととても痛いです。果皮には縦筋がありますが横じわはありません。白い冠毛には刺がある、などです。

なお、乳液は道管に似た乳管（生きた細胞から成る）から出るものですが、副産物と考えられています。成分としてはゴム質、有毒の物質や酵素などで細菌の侵入を防ぎ、べたつくことで物理的に昆虫の幼虫などの付着を防ぐことなど、生き物からの防衛手段になっています。道端の僅かな土地でも長期間開花し、生き抜く術を備えているようです。



図1. ノゲシ



図2. 葉



図3. 頭花



図4. そう果

### <協会に対する支援>

3月7日(土) GNホールディングス株式会社様に2020年度「大人のための自然教室」の受講生募集広告を上毛新聞に掲載頂きました。

## 巨樹・history⑤ 長野原町大字林：「御塚のイタヤカエデ」

第7期生 浦野 安孫

「ハッ場ふるさと道の駅」の北側、国道145号線のハッ場バイパスのアンダーパスに潜り、外に出ると直ぐ右手に円丘状の森が目止まる。バイパス工事で跡形も無くなったが、江戸時代にはこの付近を真田街道が通り、直ぐ近くに領主真田氏の「高札場」もあった。

土地の方が「御塚」(おつか)と呼ぶこの墓園に、樹幹周3.7m、樹高32m、樹齢約300年のイタヤカエデの巨木がある。陰樹のカエデがこのような大木になるのは珍しく、町の文化財になっている。この円丘には、イタヤカエデの巨樹がもう1本とケヤキの巨樹が3本茂り、南面には三原34番札所巡りの32番林寺も併設されている。そのためか、この御塚内には厳粛で落ち着いた空気が漲っている(写真1)。

イタヤカエデは、東側の共同墓地側に枝を伸ばし、葉が茂るとその名の通り「板屋根」状に石仏群を包み込み、雨風や直射日光から御仏を守っている(写真2)。

春が訪れると、御塚ではまず南斜面に群生する福寿草が花を開き、暫くしてイタヤカエデが淡黄緑色の花を咲かせる。バイパスからも見えるこの花は、若葉の開葉の様にも見え、墓園は淡い緑で覆われる。

地域の方が御塚を「聖地」と崇め、塚全体が文化財になっているのには理由がある。案内板には「大乘院、村信法印(修験者) 寛永2年(1625年)3月 御塚の神也」と記されている。伝承によれば、村信は手に鈴を持ち、読経しながら「この鈴の音が止む時が最期」と村人に告げ、この塚に入定し即身成仏を遂げたと言う。約400年前に村信が「生き仏」になったこの塚は、浦野家墓地であり、村信がその祖と言われる。

医療や科学の発達していない時代、疫病の流行や天変地異から人々を救う唯一の道は神仏への祈りであり、その究極に「即身成仏」があった。だから、全国各地に「行人塚」があり、この御塚もその一つと言える。

村人を苦難から救うべく「生き仏」となった村信の御霊は、目の前を行きかう車列に驚き、真田の時代に思いを馳せているかも知れない。

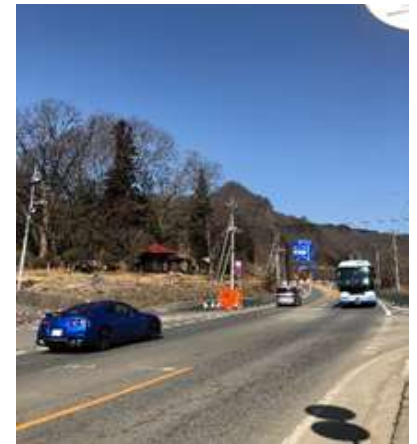


写真1. 御塚



写真2. イタヤカエデと御仏

### <協会が実施する事業・研修会等>

実施日	内容	会場
4月19日(日)	第18回通常総会	花と緑の学習館
4月19日(日)	会員研修1 講演会「いのちの森づくり」	花と緑の学習館
4月29日(水・祝)	敷島公園まつり	前橋敷島公園
5月4日(月・祝)	会員研修2 赤城山自然体験メニュー研修	赤城山覚満淵周辺
5月16日(土)	会員研修3 ネイチャーゲーム研修	憩いの森 森林学習センター
5月17日(日)	連合群馬ふれあいフェスティバル	前橋公園緑の散策広場
5月31日(日)	「大人のための自然教室」開講式	憩いの森 森林学習センター
6月7日(日)	会員研修4 榛名山ガイド研修	榛名山沼ノ原
6月21日(日)	前橋子供育成会「親子で楽しむ木工教室」	前橋市総合福祉会館
4月18日(土)、5月23日(土)、6月27日(土)	自然観察会	県立観音山ファミリーパーク自然の森
4月25日(土)、5月9日(土) 23日(土)、6月13日(土) 27日(土)	森林整備	サンデンフォレスト

<編集後記> 県立自然史博物館で1/11~2/16まで「ぐんまの自然の『いま』を伝える」特別展がありました。インプリ協会はパネルで2019年度の活動を報告しました。インプリ協会の活動は多岐に渡りますが、2019年度の自主研を含む集計では、212日間活動し、講師440名、参加者10,826名でした。この活動が多くの人々の心に残り、自然を好きになるきっかけになったらと願っています。(櫻井)